風俗文選

辯表

九

へ 5
5700
8

文卷五

和

門へ8
號 5693
卷 4

U 572882

詩歌誹諧辯　文艸　定先後辯　許六　支考
豆腐辯　許六　天狗辯　木尊
手足辯　汝村　人參辯　許六
射御辯　許六

風俗文選　卷之九

○辯類

詩哥誹諧辯

文艸

一士あり。犬燈籠を把く。法を小永して曰。春卒変雲に入く。佛菲海に波くを久し。中ころも桃道の一流。あゝ口ゝ水鄉に入るもて。村雨と時雨。老も平麦と流し。秋扶を拝さむ。志ゝ神ど云。時分のこゝろ小原に来く。古人よゞ詩をする人ぶり。しゝ弾指していはく。渠ゞ詩ざしを。なしゝ。及ゝ。おもひまゝ。ひゝ。いゝよ滑稽

乃新に鹿宮ゐて。信濃乃国なるこもれる也。今こ我
一辨をもして。諸とこの境をあらそ事。乃くのこと
及つき玉ひ判断すんしまし。和尚のほうるまま。
流のあふぎさん。上代代なる俗ぞまく。人乃仏誠
とすれば。云葉。ちゆうを責らるまゝ。鬼もあら男も。
頂をうるうる。四匹なれば。其俗ぞ。ちとしくハ者の上人
乃。衣冠つやりふ。帯筍きるかしして。轅乃中は
ゆまをうるがごとし。青侍白丁たれしく。警よそ
ほひ。住居玉津島と。宝をうゝへ。あるひつとし
野くに隙の拾ひめ紀ちるもしまを。富士。おさる。
須戸。ぬ名の道旅よ。酒のしまを乃久いをまをして。

ゆうをんたを一ゐ神と。さすよ。帳をゐ乃庵さし服き
て。おうををるふたよりなく。小綴まゝるふ。寓馬鳴
蓋のなるよを。勝かくゐよ。褥もつををゆして野ゐ神
ひををを乃をしく。牛道。廉乃。猿すゐを乃をゐ。名
をやるも及ゐ。おきそれ位るく。者をるまゐ乃をゐ。
下よ臨ゐる川景。無ゐる和歌。月ハはゐ。諸を
をるゐ無碍自在をゐく。志乃おもしく家。辞の泡
ざるハなゝ。其乃乃乃を。をゐりゐる事ゐさゐかの名
小神よ。八匹乃駿馬ハゐる。ゐん合せく。剣ゐゐるゐ
ゐ。手綱ゐまゐ。盤面をゐを。鞭ゐ神ゐ。四ず
八枝。時乃間なれ。況やをれ上の川流。ゐはるんく。後

むなしく勝負。勾欄繚繞を問とせず。袖の上に置物
まゝ。おのゝ花を加へ傷りなり。嗚呼快々哉。
如何せむ。今見る所乃。桃花なるを。
桃源の外。ちりぬるかな。世業空。林鶯ためつゝ。
私生涯。ちりぬること。京田舎玄猶いきて。一本ある
ばかりなり。雪の市中。柳巷。陽炎の芝原。
いづれも。あらぬ心地。小物理。なくさみ。玄亭。遥
を。あり。神ぞ。一時の笑ひ。なるべし。月かすみ。
ぬ。春の根。出れば。霞。ぬ。春。
すむ。そなかおもしろきほ。
多海の門。背。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
音。乃。廣。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
処。月。のおもしろ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
寺。神。と。逆。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
を。夜。ぬ。乃。時。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

定先後の辯

支考

雅孔法師。むし浪化よりせ。神。
歌。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
雅。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
を。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

を除くまこと神のかまとて林のごとくにむすびを結ぶ是ハ蓮華
かとふあるんるをこのうちあるいそしてまことに君まうる
ゆ。亦世界こそ神ゴ判たるそうしんといつるゆいとゆぶくゆ。凡俗
上面じきく。菊をうんざる蓮華をつんぬ色よあくゴ神。菊を入
く。凡俗上面ぞ林紅ゆ。重ねてあいさ色亦わいつま
も亦乃紅ゆいあわるゴゆんゴうけぬ凡じるゆくうまさうゆ。
ゆうあ心の蓮も次あいどゆくし野乃谷もをあううわてゆ色
乃ひうし神ゆ。ゆもゆ菊ゆ蓮ゆをうしうわをゆ。世ゆ凡俗乃
信あいゆ。ゆ菊ゆ御南ゆおりしく。面白ゆ人ゆはんゆゆとゆゆ
さゆ。凡俗のんはあうゆんゆ乃凡俗をいれむゆうさゆ。
（判）法も業はも果ゆ秋乃業

豆腐辯

許六

ゴリー豆とあり。京ゴ美ゴうゴ村。豆腐といつ和一丁出く。
名もなく類もなく。甲もなくひもなく。ゆうゆ色と計
おゴゴうゴうあゴゴを神。そ神ゴわ小路ゴゴ出ゴ。
世ゴ乃聖ゴ賢ゴ教ゴ神ゴ。青豆腐ハ。石部金吉とて
ゴうゴ果ゴ。今ゴ乃おゴ神ゴあゴくゴ和ゴ。豆腐の聖ゴとハゴ
ゴゴゴ。形ゴ倫ゴ文ゴ字ゴ献ゴ立ゴ。ゴ化ゴ。ゴ化ゴ。ゴ化

よせひしく心ぐ。朱子程子乃陸こ[illegible]こ神を異端寂滅
と配すまきそも、元来聰明睿智の飛躍ゆゑ。ひろく
なりそ。たとへば周名ゆゑ非揚名ゆゑ傳云こ陳[illegible]よ[illegible]
てそ。絶四真井ゑ客こ[illegible]。ゑ云の等ハ無そ。未来の言ハ
ゆこうぞ。そもじ一参乃確まして。絶日一参のかこうまも。
詳西むり。竟乃天下ばこうまじ。なわひさごもかーゆー
ゑ[illegible]こ。天下安安のそこ[illegible]こ。[illegible]して[illegible]て帝ゑ小[illegible]ゑ。真中
乃黠の玄西ゑ。言こうして[illegible]ゑ小[illegible]。巣父ゆ年[illegible]ゆこうへ。
元来神申ゆ真乃時まこゑ[illegible]ゆこうひこ[illegible]。和漢西じ
真[illegible]ゆ。ほめ[illegible]ゑ[illegible]こ[illegible]ゑ神ゆ前[illegible]
ゑ[illegible]こ[illegible]ゆ。[illegible]

豆腐ゑ。異なるまーハなこゑ[illegible]。

天狗辯

〇第乃形あゑ。ゆこづまゑ画[illegible]ゑ神ゆ[illegible]
じ天狗乃天狗ゑこゑハなゑまじゑ。[illegible]人ゑ書こ[illegible]
まゑ。いゑゆ。天狗ゑ乃古法眼も面ゆ鼻ゑ[illegible]
ゆこん。ひゑゆ。神祇不敬もあゑゆ。人倫生類の外ゑ
ゆゆ神ゑ。他法のゑこゑ紀道ゑ[illegible]。世乃人の我慢長
じきゆ。異ゑあゑゆ神。天狗ゑなゑまして。校[illegible]ゑ[illegible]
異界ゑ白龍の山位をぬこ。[illegible]の外乃ゆゑゆこうき世の
[illegible]乃ゆこゑ近[illegible]の山の夜ゆこうよ。ゆの[illegible]

ぞさそ侍。又さ人帰りかつ〻きやゝ。とる月乃しの花ざかり。冨士乃ゝる根よ祝ふとて。月宮のゝる雲ぢをしたまこゝる。浮世のさまこそあつ神なる。ほ神ど名所などゝもべき就てもあゝそ。かの男も出かつりやあり者し。虚気ゝる男をさとぶらゝ。嫉れも世ぬ高ふ。孫をあうけ夫ほをまされゝ家ゝうゝほゝ。ゝ神。ゝほ境界ふも。何乃奢うあちゝく〻世間の世法ふ及び。天物乾母ほと人ふいゝ神。強めを乃一庵ふつゝなりゝ。波羅乃酒ゝを。酔狂乃暴内もいぶゝ。ゝゝ紀就ゝも。花乃就人を意ゝ。半ゝ客ゝ海ゝ法花法ゝ。心中乃ゝゝゝ。形をさられ。果ゝ何ゝ鴻ふ遠ゝ神ゝ。面ゝ乃数ふ八ね。ある人。法乃天儒ふ天物を問。こゝ深山幽谷乃いきゝ。かゝ乾変異八面ゝる也。何の怪とゝるゝ人ゝ。ほ神ば天物ほ谷乃いきゝとゝ。藤風を砂ゝ人乃いきゝなゝん。尾長虫ゝ毒ゝ。ゝ乃いふきゝ。ゝ乱八ゝ食ゝ。ゝき神なゝゝ悩なゝ。

手足辯

汝村

○甲冑乃ゝゝひかゝ。ほあやゝ。紛焼地折をゝちがへゝ。ゝ。むゝゝ。ゝ国中ゝゝ。ほゝ。ゝ。ゝ。

ざまこバ。持ようこそ置こそれ。そまこそ行ぶを差いして。ぶ
乃用をちこぐ。皆お履をうけ。客履ようこぶくえて。亜こを
抜まこ。所る所ち。足袋襪よつてみまつ。あ由こはつる神ぐ。
る如る蓮か挟ふこ秘。千山方れ乃向ふ坐こて。れ婦ふ未
くぐ。ふこ一男乃奴こて。宮くめつる意なし。頭乃風を打て。眼
乃あうぎまこや揺る。ゆうぐる不なく。みなこたといつるなし。
そしゆ。しまるゆ乃重一なるべし。貴人る家の傳ふ。侍女ふ姓
みてしめあいきど。廊乃役あるゆ。ばゆまぐ。さ神こる家聊して。他
乃鼻端の塵を拂ぐ。人怒つく家ば罪せむ。人まこる家頭
乃幅を。ぶこて。近ぐ。家ば。ぶたふこ中こ。ぐ。世乃人家
ゆ代つくぐ。ふこみゆ。ちる。怒ばこれして。家を阿方こ号

まこ。こう。お母よなる僧ふ。ち僧ふ人。蒲、園、簟了
所ぐ。体するはもかなこず。ぶ体佛ま体一ま。ぶ。濁ふ入
人も。ぶこなこて。ち這入ぐこ。向体ぶくよあこ。みを
つまぐ。ふ体言れ乃ふるゆ。ふるみよ。ぶこ。回一徳利子ち。
吾別の体なれ。

人参辯

許六

○夫人参こて。元氣ち補の聖薬也。かこ。ぶ。ぶ。ぶ

乃作。両ちかぎりあり。うぐわ沈人参つくりに買ふ。
て。世界の人参。産地はまり。時を切くれ。價くる也こと。
脆き。人参の品は入りくく。産地の解を最上とす。
作物。さとしどころ。ふ。産地の解の発と。
ち。おり紙ちうの小袋。質小至よりの重なり。彼人
参の製者をおしるふ。産地人乃制強まるなる。
又ち他人乃價こう也ものでく。ちとまくし
ちくしくり。人参乃かして。あまりよく人の命はたらく
ちう。産地醫療なれば。人種ちを重べし。ちとく死ぬるも
せし。人参ちの敷ちる者なし。人参あるもの。人参ちて人
を助ける。又人参ちて人体数を。出死乃毒剤を。持ちく

ちとへし。さ程に大切乃金銀。はなんぞ捨なんや。まして
こあり。人参ちて死ぬる病。人参なくて死ぬる病。人参なくて
て治るやまひ。此二乃内。人参なくて死ぬ方。ふれ
ものひとの捨なるべし。我流病老衰して。折ふ人
参を用ひ。唐乃産。名醫の産。ち切をこしもかゆ事
なし。醫家ち人よあるべく。ふしちと家し。病者ち
呑ち切をえ。ちとまく。病ちを入て脈はまこと
ふ。ちとちし。病ちと体入て。合点つしで
体。彼人参ちも敷さま。急おくちる事をこ
ふ。其ふいちちとなしてひ。なしちを中ち体の後ねば。
又人参乃こちちる体。ちとふ。ちとふまとちと人体

なり。きくしあるうもしあ隆間もとりんさるぶ。勿論唐の剤
乃微細の能ハ。知のふまでと。知らしおぼつかなし。ぶ故ふ
唐ものゆゑと原乃。数百方乃醫書。皆唐人参うて組
うる方也。義。人参乃弊よりかなるべ。甚ぶ所以記すべ。
唐人何乃ものを忘すべいさ。さまバ川芎窮乃ごとくぶ多
し。そまも藁藨。尾張の産を極上とし。他地乃大根乃
産ぶ所。なんとぶ多くるる事を。きらざるべ。そまも
醫乃。雖道。ふ。れ知らるべ。醫者乃ましまひ
別ぶつを。低者ぶ多影ふ百とうて。新向をよるる所。甚乃
産をもまはくつねり唐さ境を上ふ名人乃多恨。
因し情ぶなるべ。薬品醫をまるべ。所乃を知ふ人を

乃るぶ。ふ醫ぶ前ほなわ。ま所他を面しかうして。ぶ
ふ乃ふ影かるん付乃。学ふ又なるべ。こと古人上ふ仕
るなわさる試学又ふまるべ入く。一切他乃ふて乃ふ乃
ゆ人。茶ふくの皆掃除也。ひし丹溪素問とうて。四十
ふる醫ふ入。古今乃醫聖と称ぶ。すべて醫ふハ。採き
和なるべ。道理無しー。ほを窟ふ。素問一部の事也。
ふ能ハ。味噌味の新ぶ。ふして。ふ長波家乃ふ面ぶ引
ふわもやをるべ。今乃上ふ。ふ人ふ。毎度ふ素問乃
詰で喫茶。本草の説とはバ。文蔵病家。平紐
を信ぜんして。大きふ漢学ふ勝ふ。ふて上ふ名醫ふ極
ひ。面世乃やまハふ又蔵ふ。素問ふ学試学ふ

して。彼名人乃ゆゑをもて。ある人だに吹く風
よへ。虎といふ字を。出てゐまれば。忽ち伏しぬ
ある時人咎めて。つとめて文字をかいてゐまれば。
ゆゑをもて。日本の大和文章。虎乃
字あるあぬがごとし。さて程度より程度へ入。見る
上をとゐくみる句。ことはゐて。ある句なりと。小刀判
乃小細工をごとれ。ふ人。耳ぢをれば。絵を程度
すめ入。程度地獄ふ陸をなれば。霍乱乃霍
事をくらん。病が買なりわとん。名人乃一言なり。百年
の後。第程度がまくしぶ。ふ潜上乃ことをも。人者
とをぶへし

射御辯

光顔を見る。武乃本性をたのこ。百年のこる国を。虎く天狗
ひてきこ。武の徴禄を。後より地狗せをび。見を会る賜を。
忠義をおびて形となし。武道を弾く肉狗ゆる。廣面
まもど。同まどろを。鎧塗を。廣乃矢尻ハ。脳板よおきこみ。老
雷が切先ハ。膳乃皮よおさえんかうと。老を所為ふ。鼠より
ゆうと。年ハ諸蔵が齢より。陸る。嗚呼千行万行乃涙を
おとし。ご思ひ出の辞をおもを。武士乃武尻をそ。
ふもどして。商人かんるはしまもの。ふもど。武士ら。武士乃
まゆ仇ふ。武士乃武士奥きハ。鼻を。

の稚しく家職乃ふる事をたゝまで。魚物野菜はた
そぐひもつるゆあるとかゝるもの臭し。武士の武藝をぬ
とつゝたゝなることあるまでゝ武士幸ひ武藝をぬ面まる
情要格眞ぬふ第てかゝるまで。武術力量をあてふおよ
べるまで。馬物具を乳むべるまで。作る事四時ハ農乃
稚なる稚ど。はた食粮をる字治川乃先をかゝるまでゝ
世ふは食和墨なるゝ。先乃なるぬも不自由なるべし。
翻ほ数百乃面勢人。一騎も殺しぬまへ。作とまが
預金乃荒ゑも。をこゝゝて廣ゝゝ。朝勇ふよ
仰付ゝ作とは。梶原ゝなけまぬゝ。あるきは慶
ゝゝぶゝ。ゝゝ知べし。一とせ大坂陣ゝ知べく。

完璧といふ天下名刀乃長刀の名人も。折ゝ記ゝ
かゝもて。絶ゝ組ゝ付ゝ。一生乃骨折ゝ。武
一度の刑なる式。ゝとはゝる不完伝の。完璧をつふよ名
あるゝ。ゝゝ藝術をれむべるゝ。むゝゝ。一番強を
しゝるゝ人ゝ。ゝゝ乃ゝもなゝ。ゝゝ
ゝいゝゝ武藝をなゝ能ゝ武藝の名森
ゝ。ゝ平乃代の看板なゝ。武藝ゝゝ。武役ゝあるぬゝ
ゝ。せぬごゝ。ゝゝぬゝ。ゝく恥ゝ。ゝ。ゝ
ゝ。役替ゝ。ゝ。ゝ。ゝ付ゝ。ゝ。ゝ
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ

きよらあうねし。一ぢゑをもしまふ。大内乃後
なり。ゑもとりかりー間。北乃ちよねくまけ入。まちの
乃むなーまもも。秋の月はも出もしわうず。おあて
ち食法とち術。ぎちくを藤る事。ぢちをさ。ぢ
ちらちかよりくく矢束ぢ引ち。おぢちを目ふ。ぢちし
ありて。細ふあくちを。ぢ二ぢ乃ちを。ぢおしちを
ちを。九ちをかおちもあちこ。ちりくもおぢくぢ益ふ
ぢちじ。剣術ち。無方乃。担又ちちぐじ。正法念流
乃兵法をぢ入。ちそちを東記乃奥義を伝ふ。祖祖又
ちを四代乃門弟。二十余人の中。東記を嗣ぢ。
二ちちよちをぢ。剣術乃法流乃源也。

利ありて。父が術を継。宝義院の法京ちわ。
ちぢ代ぢわ馬ち悪る。彩芸流をふしくがけひなの
乃ち達者なりぢ。ぢ乃ちを。一弦武者のち見わく。
こ術ぢちくぬちを。ぢちちなー。紀ふ頼ぢちんとおふ。
たち打ちつく前ふ斬つち。ぢちちやく敵乃胴腹を。
突ぢくちわふ乃なー。馬ちちぢ乃ふ。ちしよく宗得
ちわちも。軍馬乃上ぢちちちねぢ。ちぢ。ちぢ知ちわて。
芸毋衣乃陸上。河合氏乃秘術を学ちて。学ち教巻
乃おもむ。ぢ。ぢちふ。ぢちちを紐ひ。ちるちこが見なーか。ちふ
乃をちふちで。息合ぢ酒ちふ跡ちて。大閤秀吉公の也。
乃。楽法乃近ち和乃馬師出也。ぢ術ちたつちちち。

百二十卷乃秘方を渉る。一乃好事を志ざす者。求るに
よしし。今自称を一流として。心と入道が伝也。世よるを
るるに人あれど。心と入道の名ばかりにて。源よ
りひあるゆへ。行ふ事。従者たい藝称せ神て。禄を
いとくるおろし。今を志る人さへなかりし。神を
段の同利ふいつなり。馬上乃武。接合。たゞ手。早業。よ
ると。鞠踏乃名人ふれど。こは法ちかく求先さしたし
はやかの長。大同儒こ代より。代乃曲を志り。寸法。曲尺
合。ゆる事なくゆはして。こ神と考ふ肺肝の君よかし。
泰平乃世の奏乃響と。世ひとり。筋骨つく。
力はきの度。おのゞ分限をちかく。当役を励ひべし。功成

名遂く餘力あらば。天地陰陽乃理を探る。仁義礼楽
乃道を学ひもすべし。こ藝を文武の侍ふいつなりかるゝ
を文よなのゞ行ふ。武士乃武道を先として。文を
なるゝ心ばべし。今吾猶子十歳乃時。遺誡のこゝ書
は辯を書して。武乃魂をつるゝ。

雨乞表　許六

贈仏賢表　原石

贈仏賢表　其角

陳情表　之考

表類

雨乞表

許六

〇皇天天は信しまして天の子孫。四海乃民を和し一。農業おこたらしめ。蚕飼時然うしなはしめ。あまねく御うけ御の波々。八洲乃外まであぶれ。ひろく御恵の風々。ぬぎ[illegible]もなうわきわ。さうまはたらしの裏六月。おかひよ旱して。面一ちも降ぬ。千里赤地として赤地しるわ。百川乃面ろく川乃糸と成。野老ふきとり。村翁鎌つる。牛羊唾かゝ紀。犬馬舌つゞ紀。[illegible]白雲よ昇こあ入ま。月々新くしてあり。[illegible]神も岩戸小川こゑ。鳴神の

函も膝を屈して立てども。土器乃大皿を。忽ちまこと彼
く。小鼎乃艾を。ものちどろふたとなる。白髮乃弓居
をやく。葬家乃変を感じ。康能岩あらハ独て。勤者の
労を慕ふ。大堰柱乃れ。さうひた。御祓乃弾先をあら
ひ。弓弦の西づゝあた弁を汲でも。狗蠅のひともおりわきか。
さ神ハ玉王もまてあわて。改ちでしく。古代乃風と興
しがうの庭乃あくハをを。ひ神ひ。実夜のあるつよ
ま。仏衣をぬゝせまふ。百度石を西し。郡司ハ袴を拔て
ちゞこさわある貢物をゆるさ神ゆるふ。天河ゆん怒のあり
て。かくるゝき月ゝせまふて。神泉苑乃祈さ立てる
なくて。布留の社乃名のゝ宮し。半を流ふくハ西式いの足

義公とうをてを氏神をとのむ。天なやをあハ神ゝ
ゆゝれく。西ゆかどこしのゆ。仏湯を大谷を西し。樹
撲をあゝゝしよ鼻禪をかくをむ。粉ゝれびるゝ
雖もおりを。裝束ゝ立を拾ゝ。倩装をゝわ五ゆる
さ神く。猿楽を天道ゝ中ゝるべしと。庄屋肝英諳で
くゝ乃ゝゝ。臣悲歎の情ゝゝ。拜表して以て聞を。

朝佛骨表

古文傳類准讀孟嘗君傳之例

其角

○むし韓退之。表を奉りて佛骨を嘆る。今ゝ重
を讀て。退子をあゝ。人死して骨となり。骨朽て
ゝか仏。佛骨何乃王位ををゝ。佛骨ゝ人を

微さば。會歌の皮骨を。拔人ををがまべし。人を天地の靈
にして。會歌人より及びて。支來帯乃かざりは象牙をそなふ
べし。弥彝の鋪物は。虎豹の皮はぬと。鼈甲八幡乃
はこの尾毛を筆の用にぬる。鹿茸。牛角。鰐の蛇
乃をとべし。宮室を飾るに。黑地を造る。そこなき鹽ハ。ふるて
肉を潤し。雉子乃胸殼。蓋骨を。噛て歯の潤ふ
ものなり。退之佛骨をもやしし。會歌を。ものふとしぬ
まを。何乃謂ぞや。若佛骨細工乃ものなりけるもなら
ばとい。そもそもやも。疾鬼はあらく。疾はとせざれ。假令
掛鹿乃鬼なりとも。虎の革乃猿臂禪をそれべしと
かまこの疾鬼を。ふつく。ものふのを。

讀佛骨表

厚巻

佛骨を西域の人乃骨なり。漢土にはあし。日本は素
豆腐昆布より実のふし。ものさる長逗留して。國乃
よこなら祝。ものを撰をおろしぬるこば。大小用よりきに
足のふとうあり祝をれ。そやくを祝乃家宝をは竹のもこ陪
ものへ

明魅乃仏教乃ぬる陪乃罷

陳情表

支考

美濃國山縣郡。在三輪明神社。
清輔朱雙紙。記此神詠。東華坊
作文奉二此神一云云 愚謂借用李
令伯之表題號耳。

世に天地ありて。天地をくにとり乃父母とこういふ神。人を万物のよりどころとおもふ。その人に過あり。そなへをもて来業恒あるとて西に向ひ。西業恒ともいふ。東西乃二業をも。支考が情実のいとく。郭にあらず。門八郭蓋に
といふ。家にあるべし。仏にあるべし。さるハ世に
神の氏ぶるまく。風雅ハをのづから源泉乃ながれ
をくるむ。ひとりを業門に移を深く。乃ちふ祖仏乃教を

ふ。ふ。中にも輪宮に対をうけく。ぬく孔老乃膳をとむ
ともしも。をの神が智をもとめ。乃ち。拙乃理ふをうけく。そこで去
乃懸の。窓にまとふ。れをとふ。まで住ちをもて一と勢湖南去
初住庵に。白頭乃翁とうそ。が紙に文字をとる神。風雅を
ふを。ふのそうしるを拙なりと。ぬて。け翁とあそぶはを。酒
まふ。れ人乃。何ゆふ。ぬ。でも。をしおもしろまふてちそで
住ちをる。翁乃曰。俳諧とふ。乃品あり。寂莫ハをの
情をふ。ぬ。女色義者に。なのそびく。廉食のさびををあ
しみ。風流をものすぐさをいふ。猿蓑孫彦に。て。
鷹を。ふる人をわが神ぞ。風物をふ言葉をいふ。言
葉を。虚に。て実をおこなへ。実に。て。虚ふ。

そぐのはうこ。ゆえの品を。ひとの人よ。こうよ面白いよ
ふ。あるもの。こうき人の。ひとよ面をいふなわとそつてる。さ
ぬばひさうみを。人のはえん。人のそ[illegible]なる[illegible]
きむとおもひ。おもしら神むとはよ。をのまぐおもひ
ましいわるとと。ほをそぐめ。いうわね。事をはくもど
うぶ。ひて俳諧を。まのあうわよほうとて。ひをさう
ぶひとすぬばん乃ふ面をはくさび。人のやすよ面紙
すれでむとそ。その神をむつ[illegible]よ裏をこぐわ。を乃神
むけうかうざうむとすきば。人を金おのまづとつび。
ぬうら夜してあさく。ひくうぶ[illegible]ぬう。和よはよ。
ゆ屋さひるく。ばん又やをうこどある和。曲琴亭ゆ

あそぶ中ありて。尾の荷芋ぐうが。苔の赤ふち一句紙面
て。俳諧をかくひひつくをもぐ。きとやさ[illegible]ようさ[illegible]
むつ[illegible]ま芋乃ざ矣をるん[illegible]そせうお。高揚合のわ。
面芋乗乃あるぐも。おれ[illegible]和のこのそびよ使わて。ふ面を
ひくおはのる神とひば人をさもおもふとこう。あざひる
き。うや和ん乃せまわうんはを。焼火の鮫寝ア。
雪おけをこさ。ア[illegible]の部完ふ。揺事をえんても。和を
かくさひきちと。おひをんふ。あををとがやをよ面を
をまわきちと。を雪をぐめそぎ先ぐる。見わあず
路乃ふふ猛立く。松時霧深ちなうんよあた。越を
白根乃をうねけすを。ふはくしのをとびねぎこにやれ

松原乃名ようそしく。ぺきるかしあわとぞえそめる。今い
年ら老の名ふよぶ桃てぱ古里乃玉泉もむしふるなる
ー。人乃命ゆさぐ失ぐ元ふ。耕(タガヤサ)ずして食ひ。織(ヲラ)ずし
てそそる。おそらく世乃人ふ。何をとうゆふせきるん。ぺくらし神
乃宮ふてーさ祝。出くらかの蓮乃滝るあそぶ。桃造をおの
づ。人乃上ふ。ぞ祝く。おくんいの人をあやゃそふなる
ー。人乃桃造のあるんをば系桃造のあふ世。我桃造乃よ
かーぬ汝ば神子乃牲のよかーぬをとうふべー。もう七歩みちの沖ん
よ。れ蓮もかはておぼをんうしぱ表をいさふくみのふお。味
らかうゃぞれひまーき蓮ぱ。桃造ょ命をかのぐくとも世間の変化
ふ新ゆうんぞ。幣(ニデ)乃ぱれまんふかーこのゆて彩首の源とふを生きる。